

政務活動報告書

令和6年2月12日

報告者 坂本治郎

日程 令和6年2月8日(木)～2月11日(土)

研修先 長野県辰野町、長野県安曇野市、長野県飯田市

〈視察テーマ〉

- 1、Airbnbと地方包括連携協定(12月の一般質問に関連したもの)
- 2、ゲストハウスが拠点となるコミュニティづくり、およびそこからの政治的活動
- 3、自然を有効活用した保育施設

〈旅程〉

- 2月8日 10:00 松本空港着 12:30 辰野町視察 18:30 安曇野市(安曇野市へ2泊)
- 2月9日 安曇野市にて地元議員有志による住民を交えた交流会、および政治塾に参加
- 2月10日 午前中は主に移動、16:00 飯田市視察(飯田市にて1泊)
- 2月11日 『野あそび保育園みつけ』の視察後長時間高速バスにて帰宅

〈政務活動及び学習内容〉

- ・辰野町にて現地の町議会議員である本田光陽氏より Airbnb ホストとして実践している方々のいくつかの現場に赴き、協定前、協定後どう変わったのか、これまでの経緯や生の声を聞く。
- ・安曇野市にて現地の市議会議員である増田望三郎氏のアテンドにより、市議会議員を目指す若者と一緒に勉強会や市民との交流会にゲスト議員として意見交換する。
- ・飯田市にて職員の湯澤氏により協定設立にあたる経緯、官と民と地元団体と大企業がどのようにかかわっていったのか、そしてその後の企業とのかかわりによる成果などを伺う
- ・私の関心のあるテーマでもある自然を生かした保育が飯田市にあったこともあり『認定こども園、野あそび保育園みつけ』の現場視察、そしてそちらに通う親御さんとの意見交換を行う

〈所感〉

- ・辰野町
辰野町では実際にホストをされてる方を訪問し以下の内容について情報収集を行いました。



地域活性化への貢献

Airbnb の波及によるものとは断定はしにくいところもあるけれど、これまでの町としての新しい取り組みは辰野町への観光客数も受入ホスト数も徐々に増加させ、関係交流人口や地域経済の活性化に貢献しているとの声を聞きました。特に、ワーケーション需要の増加は、宿泊施設の稼働率向上や、地元事業者への売上増加に繋がっています。

・安曇野市

今回アテンドしていただいた増田望三郎議員は、2013年に安曇野市議会議員に初当選し、現在3期目であり、子供・若者支援、移住定住促進などに組んでいます。積極的に市民とコミュニケーションを図り、現場の声を議会に反映する姿勢が近隣の若手議員から評価をされ、たくさんの若手の方の目標となってる人物であることからの地方議員コミュニティが形成され、そのハブとなっている方でもあります。また偶然にも私と同じ移住者でありながら農業に取り組みながらゲストハウスを経営しながらも市議会議員を務めるということでもあり、今後私が目指すべき模範だとも思いました

自分の持つ場所を有効活用し、外からやってくる人と地域の人をつなぎ、そこから生まれるコミュニティを大切にしながらも、その声をしっかり聴く姿勢だったり、場を取り持つファシリテーション力などの対人スキルは別格だと感じ、非常に学ぶべき点が多く、この方と過ごせた二日間は大変実りのあるものでした。

また市民との交流会に2つ、遠方からのゲスト議員として参加させていただいたのですが、一つはカフェトーク、フランクな交流会であり、もう一つは政治塾、これはそれぞれの方が思う実現させたい政策、今後作っていきたい安曇野市というのをテーマに発表し、そこから議員方と意見交換会をしていくという形でした。今後の議員としての立候補にチャレンジしたい人の意欲をしっかりと引っ張りながらもそういった方々の意見を参考にしながらも市政に反映させていく、実際に現在議会で取り組まれている『子供の権利条例』に

関してはこの活動が発端だったそうです。

私も個人的に同僚議員とともに月一回の市民との交流会をやっているのですが現在のレベルとしては前者どまりであり、今後はこのレベルを目標に精進していきたいものだと思います。



・飯田市

辰野町では Airbnb の受入ホスト側の意見を聞きましたが、飯田市では行政側の意見を伺いました。地方包括連携協定で積極的に尽力された結ターン定住対策課の係長である湯澤氏とアポイントが取れたので、話を聞かせていただきました、主に設立の流れを説明いただき、また飯田市独自のユニークな移住定住対策も伺いました。

地元の方々からすれば得体のしれない海外企業というものと自治体がコラボをするというのは真正面からお話いただいてもなかなか難しいこともあるけれど、県の農家民泊の組合のお困りごとや今後の課題に耳を傾け、移住定住対策課としての課題や新たな取り組みへのチャレンジとの合意、そこにやる気のある民間有志がつながることにより政策まで実現に至ったということでした。

今後リニアが通るということで飯田市はどんどん栄えていくことが予想されますが、最も大切なのは住民が望む相互理解しあう形で発展していくことであり、本来の素朴な良さを守っていききたいという思いからも作り込まない素朴な観光を維持活性化していくという意思が反映された取り組みだと説明いただきました。

Airbnb との協定後は都市圏の大学生を積極的に誘致し、空き家関係で(ゴミ屋敷問題など)外の力を借りて交流しながら地元の方々の困りごとを解決したり、オンラインイベントも積極的にやっていて、そのつながりの中から飯田市への移住を決めた若い世代もいるそうです。

また、移住定住対策課の行政だけが担当することだけでなく実際に移住者された方が移住コンシェルジュとなって外注もされています。

移住定住対策課が窓口となるものの、直接希望者とコンシェルジュをお繋ぎし、直接案内することによって移住者のニーズや不安や悩みなどに耳を傾ける、移住者移住希望者の気持ちは移住者がもっとも理解できている、だからこそ一定の成果をあげているということは大変良い取り組みだと思いました。

新しいことにチャレンジしていく飯田市の移住定住政策は今後も注目していきたいと思いました。



・飯田市『認定こども園、野あそび保育園みっけ』

視察当日は休日であったことから子供たちはいませんでしたので現場の視察をしたのち数名の親御さんをご紹介いただき、ご意見交換をさせていただきました。いくつか動画を見せてもらいましたが、まず子どもたちが泥だらけになりながら遊んだり、木登りをしたり、生き生きとした表情で活動していました。自然の恵みを肌で感じ、五感を刺激する環境は、子どもたちの成長にとってかけがえのないものです。広い園庭には、木々を活用したアスレチックエリアがあり、子どもたちは自然と触れ合いながら遊び学んでいます。この子供たちは斧やのこぎりの使い方も学ぶそうです、ユニークな点で言えば鹿の解体して命をいただくことと向き合ったりもしています。またここだけに限らず長野県の保育施設はスキーが無料でできるということは個人的にはとても羨ましいものです。

保育士は子どもたちの遊びを見守り、必要な時にサポートするスタイルです。子どもたちは自分の意思で行動し、失敗から学び、問題解決能力を身につけていきます。

また、みっけは地域と密接な関係を築いており、地域の方々がボランティアとして保育に参加したり、子どもたちと交流したりする機会があります。地域に根差した保育は、子どもたちの社会性を育む上で重要です。

- ・子どもたちが生き生きと活動している
- ・自然との密接な関わり

- ・子どもたちの主体性を尊重する保育
- ・地域との繋がり
- ・これらの点が、みっけの魅力だと感じました。

こういった点から県外からもここに我が子を通わせたいという親御さんがわざわざ近くに引っ越してくるというケースもあるようで、そこからのコミュニティも派生しているようです。非常に興味のある内容でした。